

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (教育学)	氏名 Author	WIJI ASTUTI
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation Diversification of Qur'anic Schools in Banjarnegara Regency, Central Java: Comparative Study between Semi-Urban Rural and Remote Rural Settings			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 日下部達哉	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授 石田 洋子	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授 吉田 和浩	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 中矢 礼美	
審査委員 Committee	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授 外川 昌彦	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>当該学位論文は、近年、インドネシアでイスラーム宗教教育の一環であるコーラニックスクールの多様化について、その背景と内実について調査研究したものである。もともとインドネシアの教育制度は多様に設計されているが、その一カテゴリであるコーラニックスクールも、地域ごとのみならず各校ごとに異なる様相を呈している。宗教教育の需要と供給、また一般学校教育との相互関係の研究は、比較教育学分野の宗教教育研究において、そのプレゼンス拡大の共鳴関係を調査研究するうえで非常に重視されている部分である。</p> <p>本論は、中央ジャワ州バンジャルネガラ県を事例に取り、13 世紀から存在するといわれるコーラニックスクールの多様化現象を、1980 年代の拡充期から現在の多様化期に区切って比較の視点から分析しようとするものである。分析は、近郊農村と僻地農村における計 12 のコーラニックスクールについて、カリキュラム、教員、施設、教育内容、マネジメント等の視点から分析を施し、「近郊農村よりも僻地農村において多様化がより進んでいること」が認められた。その要因として、コーラニックスクールに就学できる子どもが多く存在する近郊農村部では、標準化された形態でも生徒は集まるが、僻地農村部では、貧困層に向けた安価な授業料設定や、教員がプサントレン（寄宿舎型イスラーム学校）での研修受講をしたりしなかったりなど、内容にばらつきがでるため様々な形態が結果的に存在することになっていると解釈される。</p> <p>論文は、全 8 章で構成されている。第 1 章の「序章」においては、本研究の背景・目的、先行研究と問題の所在、研究の意義、用語の定義、論文の構成等を述べた。第 2 章の「インドネシアのコーラニックスクールの起源と多様化」では、歴史的に 13 世紀から長らく保持されてきたコーラニックスクールの統一性が、80 年代のグローバル化を契機に崩れ始め、多様化を迫られるまでを描いた。第 3 章の「研究方法論」では、対象とするバンジャルネガラ県の地域のあり方と、近郊農村とへき地農村という、多様性を描くためのフレームワークの設定を記述した。第 4 章の「近郊農村におけるコーラニックスクールの記述的研究」においては、対象とした 5 校の詳細な改革のあり方を、第 5 章の「へき地農村におけるコーラニックスクールの記述的研究」では、対象とした 7 校の詳細な改革のあり方をそれぞれ記述した。第 6 章「現代コーラニックスクールの二地域間比較研究」においては、相違点と類似点、多様性のあり方といった視点から二地域間の比較研究を行った。第 7</p>			

章の「コーラニックスクールの多様化プロセスに関する仮説生成」では、長年統一性が保持されてきたコーラニックスクールではあるが、もともと柔軟な運営システムを備えていたため、改革圧力にも対応でき、そのことが現在の多様化状況を創り出しているという議論を展開した。第8章「結論と示唆」では、各地域、各校の多様化のあり方が示され、時代が変わっても、イスラーム教育は形を変えて生き残ろうとしていると解釈できる点を述べた。

本論文は、以下の諸点が独創性の高い点として評価された。(1)コーラニックスクール多様化の現状を発見し、その背景、意味を考察したこと。(2)多くのイスラーム諸国でも同様の問題が起こっている、あるいは起こってくることが想定されるが、本論文において描かれたモノグラフは、先駆的かつ重要な先行研究になるとともに、比較教育学的に示唆的な内容であったことである。

申請者はこれまで、査読つき論文3編、査読無し論文1編、国内国際学会・会議での発表8編を公表した。以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。